

Product Liability NEWS

PL 対策

検索



20号

15.Feb.2024



【発行元】

一般社団法人 PL対策推進協議会（略称：APL）
〒982-0823 宮城県仙台市太白区恵和町 35-28
TEL：050-6865-5180 FAX：022-247-8042
E-mail:c-japan@pl-taisaku.org

Sunrise2027 を全世界に広げる Ambition2027

世界で急速に進む 2次元バーコード活用

店舗のレジで聞こえる「ピッ」。商品外装の 1次元バーコードがスキャナーで読み取られるときの電子音だ。今から 50 年前にアメリカの小売店で初めてこの音が鳴った。この聞き慣れた「ピッ」に変化が起きようとしている。

2027 年以降、米国の小売店舗の POS レジで 2次元バーコードが読み取られるようになる。その取り組みは Sunrise2027 と呼ばれ、今から 1 年前の 2022 年 5 月のコラムで取り上げた。その後の 1 年で、消費財流通で 2次元バーコードを活用する動きが世界のあちこちで起きている。依然として消費財流通での 2次元バーコード活用に関して「静か」な状態が続いている日本にも、いずれこの動きが届くかもしれない。そこで世界で起きている変化を紹介する。

これは PL 研究学会製品リコール検討委員会の委員である野村総合研究所の水谷禎志エキスパートコンサルタントが公表しているコラムの書き出しです。

https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2023/iis/mizutani/0531_1



Sunrise2027 として 2022 年に GS1US が公表したのは 2021 年、当時はコロナパンデミックで世界がこれまで経験したことのない危機的な状況下でした。

日本は政府により「アベのマスク」と揶揄されたお粗末な事柄がスタート、そのマスクには動物の毛が織り込まれており、検疫上も問題になるはずが厚労省は一言も意見を出さず、そもそもリコールが行われたのにその輸入も表示されていない製品が未だ家庭にあります。

そこで生じた莫大な費用は全て血税から出されていますが、我が国ではそのことを政治家も専門家も一言も言いません。今、自民党にて発覚した「使途不明金」の政府の対応を見ているとこのような方々の政策でこの国はこの先どうなるのか、国民として「選んだ責任」を強く感じています。これらも結局、我々の「知る権利」と当事者の「伝える責任」が問われながらも、古くから慣例

として自己都合の元に継承された悪しき習慣です。自浄能力を問われていますから、何としても正しい対応を望むところです。

この「知る権利・伝える責任」は昨年もふくめ当協議会のシンポジウムのメインテーマです。

なぜ世界で GS1 2D を進めているも日本ではそうならないのか、この国の悪しき習慣として、国から言われないとやらないという経営者や現場責任者の多いことに驚きます。この流れも今年はかなり変わるとわれ、すでに動き始めました。

食品原材料を供給する団体に当協議会が正式に賛助会員となり、具体的に GS1QR を推奨していくことになり、経産省製品安全課からも大幅な政策変更があるとの連絡をいただいています。

経産省では先月もお知らせしたとおり、OECD による世界での「Pledge 製品安全誓約」の日本版として「製品安全自己宣言制度」が開始され下記のサイトに詳しく書かれています。製造輸入事業者（PL 法の責任主体）向けチェックシートには明確に「製品トレーサビリティ」が示されています。ぜひ確認してください。なお表題の「Sunrise」は世界が大きく変わる時に使われる英語、また「Ambition」は「野心」という直訳の元、「革命」としての意味を持ち、GS1 という世界の流通情報標準化機関での 50 年ぶりの大きな世界的な取り組みであり、日本だけが取り残されています。これが今の日本の現状です。



製品安全自己宣言制度

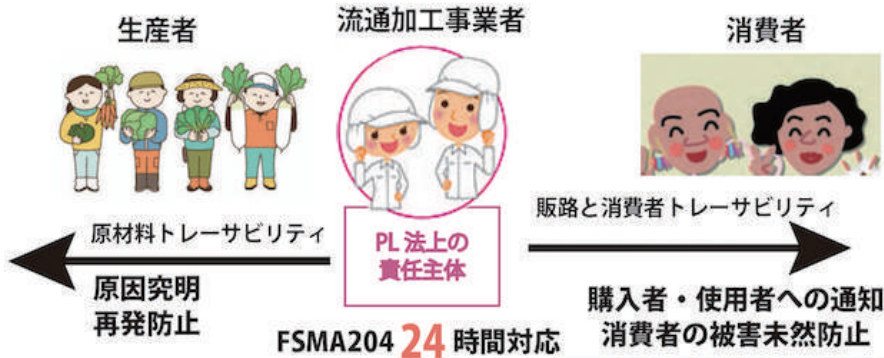
https://www.meti.go.jp/product_safety/ps-award/jikosenngenn.html

https://scodt.com/wp/wp-content/uploads/nougyo_2024_n1.pdf

食品産業向け案内



消費者の安全を確保（被害未然防止）のためにトレーサビリティが必要です。



確実な回収や廃棄

このために

流通システムでの自動認識用バーコード (JAN) 専用の QR コードへの移行が進んでいます！



scodt® cloud

詳しくはこちら
>>>>



https://scodt.com/wp/wp-content/uploads/nougyo_2024_n1.pdf

海外、国内ともに品質管理にトレーサビリティは必須になりました。

コロナパンデミック、ロシアや中東、東南アジアなどの紛争による様々な原材料や輸送コスト増、人手不足は極めて重要な問題になっています。北米などでは食品も単に HCCAP という衛生管理から食品バイオテロ対策として FSMA204 条が発効、2026 年からはリスクの高い製品のトレーサビリティを行い 24 時間以内の報告が義務化されました。この対象品はいつでも追加できることが明記されており、今は対象でないから大丈夫ということは大きなリスクになります。

例えば農家が畑で収穫し、洗浄、カット、箱詰めなどをすると「製造物」となり、その物が原因で流通小売事業者、購入消費した人などに損害が発生すると、その責任は農家が負うこととなります。北米では食品飲料などは FDA、非食品飲料は CPSC という連邦政府機関が厳しい対応を行います。日本と異なり世界では販売者の責任が厳しく、日本もその方向に安全政策を強化しています。B2C トレーサビリティができないまま出荷することは加工食品も含め大きな経営リスクになりました。牛肉などの B2B トレーサビリティは商取引のある特定の事業者間のことであり、今後は加工した後、消費され廃棄に至るグローバル社会での全プロセスを対象とした対応が必要になりました。

この対応のために世界で Ambition2027 として物流小売システムのグローバル標準化機関 GS1 が中心とな

り 2026 年までに POS (店舗決済システム) での GS1 2D 移行が報じられています。未然防止では物流情報管理として物流～ POS 対応可能から消費者のトラッキングができることが重要になります。消費者市場では食品から雑貨、家具、電気製品や産業用機械などに利用できる安全点検アプリ「scodt すこどっと®」が唯一実用化されています。



<https://www.youtube.com/watch?v=GriP0IbzSP0>

海外ではすでに対応が進み、上記の動画は日本と同じ米国への輸出国であるカナダの GS1 Canada の FSMA204 説明動画です。2026 年まで 2 年を切り、至急の対応が必要です。今一度社内での対応を検討してみてください。

第5回製品の安全あんしんシンポジウム 2024 開催のご案内

製品事故未然防止を推進する当団体が国（経産省、消費者庁など）や製品安全や品質管理（特に信頼性工学の視点）における第一人者、産業界からは業界団体、事業者をお招きし、単に製品事故だけでなく産業構造全体の大きな政策転換、流通小売などを含めた海外の状況などの最新の情報とパネルディスカッションを予定しています。

- メインテーマ：伝える責任と知る権利
- サブタイトル：つくる責任～売る責任～つかう責任
- 開催日：2024年5月24日（金）
- 会場：板橋グリーンホール 1階大ホール
- 定員：120名
- zoom 配信は行いません。なお、後日当日の動画や発表者の同意を得られた資料を利用しハイブリッドの報告会を行う予定ですが資料配布はあくまでも会場参加者だけとなります。

※詳細などは決定次第逐一お知らせいたします。
※総会などは終了後に APL 東京オフィス（会場隣接）にて行います。

一社）野菜流通カット協議会（VeDiCa）の賛助会員申請が完了しました

皆様もコンビニ、スーパーなどで買われるカット野菜、物流コスト低減、輸送保管における衛生保全、そして食品加工、レストランなどでの野菜をカットするための人件費などの負担軽減として新規会員が急増している団体です。

この団体の理事で事務局長の藤村博志氏は一社)PL 研究学会会員で製品リコール検討委員会の委員でもあり、scodt の FSMA204 への効果は確認済み。最もその影響を受ける可能性の高い流通事業者、生産者のこの先より円滑な事業活動に必要なこととして APL を賛助会員として推薦いただき申請を受理いただきました。5月のこの団体の総会にて正式に会員となり、その際に scodt と当協議会のプレゼンを行います。それに向け、今月よりこの団体にて当協議会としての提案をさせていただき、当日までは複数社の導入を予定しています。食品産業に直接関わることになりましたので、scodt の普及について農家の方でもわかるようにご案内を改訂しました。

コラム

ダイハツの不正から体制整備をを考える



ダイハツ工業の認証試験における不正が拡大しています。昨年12月に公表された調査報告書では「国内外合わせて64車種で174件の不正が確認」「不正は1989年から続いていた」といった深刻な状況が発覚、改めて問題の根深さが浮き彫りになりました。報告書のアンケートでは「開発スケジュールが何よりも優先され認証試験を行う部署にしわ寄せが行く」といった意見があったそうです。



PL 対策解説書 2022 にも記載がありますが、納期とコストを優先すると、本質的な安全が損なわれた状態になります。そうすると安全性は事故が起きないと確認できず、事故が起きても保険で対応すればよい、と考える企業も出てきます。他社で売れているものを仕入れ先に自社の根拠の不明な仕様・価格で注文、納入側もそれに逆らえず発注し納品する、この流れには「本質安全と出荷後の責任を全うする」という PL 対策としてのチェック機能がありません。売れるほどに製品安全上のリスクは時間経過（経年劣化）や使い方による様々な事故・トラブルが多発します。そうならないためにも価格、納期、仕様と製品安全対策を、一定の品質を担保できる TQM（トータルクオリティマネジメント）として仕入側、（消費者は購入条件として）確認できる方法が必要になります。

事務局だより

AFL
PLnews

2024年2月号

scodt アプリで DataMatrix の読み取りが可能になりました。(Android 版)

2027 年から GS1us が物流や POS (店内レジなど) に使用されている現在の 1 次元シンボル (バーコード等) を 2 次元シンボルに置き換えることは以前からニュースでお伝えしていましたが、scodt アプリで 2 次元シンボルの一つである GS1DataMatrix を読み取ることが可能になりました (現在は Android 版のみ)。DataMatrix は主に BtoB での物流や医薬品に使用されているシンボルです。

正確な読み取りが可能か現在確認中ですが、すでに幅広く使用されている DataMatrix を読み取ればアプリの利用範囲が大きく広がります。ios 版の対応、確認も進めていますので楽しみにお待ちください。

PL 対策解説書に GS1QR を表示

以前事務局だよりでお伝えしたとおり、PL 対策解説書 2022 に GS1QR コードを表示しました。アプリを利用して読み取っていただければセミナー、講習への参加が可能になります。取扱説明書ガイドラインについては次版より表示を開始します。



ISBN978-4-9912592-0-3

C2034 ¥ 4800E



97

GS1QR
scodt®

定価 (本体4,800円+税)
一般社団法人PL対策推進協議会

19

最新! PL対策解説書 2022
Latest product liability measures

PL 対策解説書裏表紙に GS1QR を表示しました。



メルマガ登録はこちら

https://pl-taisaku.org/?page_id=4253

PL 検定のご案内

最新の製品の安全安心を理解するための日本で唯一の検定です。初級はテキストを購入して受験することができます。

●初級は、新入社員などの研修、管理者は上級を受けることで、社内の負担を軽減し最新の情報を得て体制整備や説明書、表示対策などを学習できます。

●保険代理店、弁護士なども受験しています。

詳しくはこちら>>



https://pl-taisaku.org/?page_id=630

PL検定初級テキスト

新スマート社会での製品の安全を学ぶ



AFL

一般社団法人 PL対策推進協議会

<https://pl-taisaku.org>

PL 検定初級テキスト
5,280 円 (税込)

一般社団法人 PL対策推進協議会
事務局

〒982-0823

宮城県仙台市太白区恵和町35-28

TEL:050-6865-5180

FAX:022-247-8042

お問い合わせフォーム

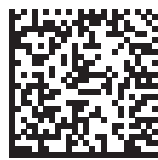


https://pl-taisaku.org/?page_id=19

スイッチ断ボールIII
scodt アプリならどちらも読み取れます



GS1QR
scodt



GS1DataMatrix
scodt

是非アプリでお試ください。

最新! PL対策解説書2022 税込 5,280 円

これ一冊で、DX社会での最新の体制整備から PL 対策まるわかり! 本質安全のためのPDCAから具体的なやり取りが24時間以内に行うための具体的な内容になっています。現在の体制を壊さずにリノベーションする手引きとしてご利用ください。※PL検定上級のテキストでもあります

取扱説明書ガイドライン2022 税込 7,700 円

わかりやすく、見やすい消費者視点の取扱説明書、消費者基本法第5条に即した消費者の知る権利を全うし、押し付けにならない重要書類を作成するための2005年から続いているガイドラインです。産業機械から雑貨、医療機器、食品など様々な商品の説明書に利用いただいています。※PL検定上級のテキストでもあります